

平成22年4月期 第1四半期決算短信

平成21年9月9日

上場会社名 株式会社 ロック・フィールド

上場取引所 東 大

コード番号 2910 URL <http://www.rockfield.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 岩田 弘三

問合せ先責任者 (役職名) 経理グループマネージャー

(氏名) 伊澤 修

TEL 078-435-2800

四半期報告書提出予定日 平成21年9月14日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年4月期第1四半期の連結業績(平成21年5月1日～平成21年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年4月期第1四半期	11,197	△4.9	424	15.7	434	15.2	215	16.3
21年4月期第1四半期	11,773	—	366	—	377	—	184	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年4月期第1四半期	16.20	—
21年4月期第1四半期	13.92	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年4月期第1四半期	25,917	20,451	78.9	1,539.86
21年4月期	26,351	20,521	77.9	1,545.17

(参考) 自己資本 22年4月期第1四半期 20,451百万円 21年4月期 20,521百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
(基準日)	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年4月期	—	18.00	—	22.00	40.00
22年4月期	—				
22年4月期 (予想)		12.00	—	18.00	30.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年4月期の連結業績予想(平成21年5月1日～平成22年4月30日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期	22,831	△3.1	600	△23.5	594	△25.7	254	△37.1	19.13
連結累計期間	46,291	△2.0	1,704	△8.3	1,696	△9.6	854	△19.7	64.33
通期									

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの）

- | | |
|-----------------|---|
| ① 会計基準等の改正に伴う変更 | 無 |
| ② ①以外の変更 | 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	22年4月期第1四半期	13,394,374株	21年4月期	13,394,374株
② 期末自己株式数	22年4月期第1四半期	113,077株	21年4月期	113,021株
③ 期中平均株式数（四半期連結累計期間）	22年4月期第1四半期	13,281,310株	21年4月期第1四半期	13,281,590株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

１．連結経営成績に関する定性的情報

当第１四半期連結累計期間（平成21年5月1日～7月31日）においては、景気底打ち宣言等、一部には景気回復の兆しもあるものの、昨年来の経済危機により悪化した企業業績や雇用の本格的な回復には遠く、企業の設備投資の抑制や個人消費の低迷はまだ続く状況にあります。

食品業界におきましては、原材料価格、石油価格は落ち着きを取り戻したものの雇用・所得環境の悪化を背景にした個人消費の減退や生活者・小売業界からの商品の低価格化要請等もあり、経営環境は大変厳しいものとなりました。

このような状況のもと、当社グループは、食の安全・安心の取り組みの更なる強化とお客様のニーズに対応した高品質・高付加価値商品の開発、提供、サービス向上の取り組みを行ってまいりました。計画購買による原材料の安定的な確保や生産性の向上による粗利益の改善、全社を挙げて取り組んでいる業務カイゼン・改革、業務の効率化等を通して経費削減を行い、収益の向上を実現し、経営基盤の強化を継続的に取り組んでおります。

この結果、当第１四半期連結累計期間における業績は、売上高は11,197百万円（前年同期比4.9%減）、営業利益は424百万円（前年同期比15.7%増）、経常利益は434百万円（前年同期比15.2%増）、四半期純利益は215百万円（前年同期比16.3%増）となりました。

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「RF1」ブランドにおきましては、定番商品の品質向上に継続して取り組み、安心・安全を求めるお客様の信頼に応えられるよう新商品の開発を行ってまいりました。また、当社の強みである対面販売によるサラダの販売強化や他ブランドの商品を用いた商品ミックスの提案等、お客様の多様なニーズにお応えしてまいりました。その結果、売上高は8,530百万円（前年同期比1.5%減）となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、平成元年の第１号店オープンから２０年を迎え、コロッケ専門店として、お客様に継続してご愛顧をいただけるよう品揃えを行いました。「神戸コロッケ」出店２０周年を記念した「アニバーサリーコロッケ」シリーズやおつまみ等として利用していただける「ミニコロッケ」シリーズ等の新商品シリーズを提案し、売上高は989百万円（前年同期比4.7%減）となりました。

「ベジテリア」ブランドにおきましては、「緑の健康バランス３０品目」等の野菜系のジュースや「いちごとシュガートマト」等、野菜の素材の力とフルーツを組み合わせたジュースや「夏のビタミンスペシャル」等、健康訴求ジュース商品の開発を行いました。また、「じゃがいもの冷製スープ」等夏向けのスープの提案を行い、売上高は471百万円（前年同期比10.4%減）となりました。

ブランド別の売上は以下のとおりであります。

業態		平成22年4月期 第１四半期		平成21年4月期 第１四半期		対前期比
		売上	構成比	売上	構成比	
RF1		百万円	%	百万円	%	%
	サラダ	4,831	43.2	4,877	41.4	99.1
	フライ	1,594	14.2	2,090	17.8	76.2
	その他そうざい	2,104	18.8	1,694	14.4	124.2
	小計	8,530	76.2	8,662	73.6	98.5
神戸コロッケ		989	8.8	1,037	8.8	95.3
いとはん・三日坊主		478	4.3	450	3.8	106.4
RF1 Asia・融合		267	2.4	279	2.4	95.8
そうざいや 地球健康家族	そうざい	271	2.4	465	4.0	58.2
	弁当・米飯	140	1.3	212	1.8	66.0
	小計	411	3.7	678	5.8	60.7
ベジテリア		471	4.2	525	4.5	89.6
DELICA rf-1		—	—	51	0.4	—
その他		48	0.4	88	0.7	55.2
合計		11,197	100.0	11,773	100.0	95.1

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産については、前連結会計年度末に比べて433百万円減少し25,917百万円となりました。これは、現金及び預金が217百万円減少したこと、有形固定資産が減価償却等により102百万円減少したことによるものであります。

一方、負債においては、長期借入金（1年内返済予定長期借入金を含む）の返済や賞与引当金、未払法人税等が減少したこと等により前連結会計年度末に比べて363百万円減少し、負債合計は5,466百万円となりました。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて70百万円減少し20,451百万円となりました。自己資本比率は78.9%、1株当たり純資産は1,539円86銭となりました。

(2) 連結キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて237百万円減少し、当第1四半期連結会計期間末には5,918百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、383百万円（前年同期は19百万円の使用）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益が426百万円（前年同期比67百万円の増加）と増加したこと、売上債権の増加が128百万円（前年同期比26百万円の増加）であったこと、法人税等の支払額が353百万円（前年同期比268百万円の減少）であったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は115百万円（前年同期比136百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が91百万円（前年同期比74百万円の減少）となったこと、長期前払費用の取得による支出が20百万円（前年同期比40百万円の減少）であったこと、差入保証金の回収が54百万円（前年同期比50百万円の増加）であったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、505百万円（前年同期比45百万円の増加）となりました。これは、主に長期借入金の約定弁済197百万円、配当金の支払額292百万円等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期においては、前年同期と比較して減収増益となっております。平成21年6月11日発表の計画に対しても売上高については計画を下回ったものの、利益については想定を上回る推移をしておりますが、個人消費の回復にはまだ時間がかかると思われ、7月・8月に各地で起こった集中豪雨や日照不足によるレタス等、葉物野菜の高騰や歩留りの悪化は、安定していた原材料原価率を押し上げる要因となり始めており、利益確保に向けた取り組みにますます注力する必要があると考えております。また、新型インフルエンザの流行も今後の消費動向を左右するだけでなく、生活環境を大きく変える要素を内包しており、業績予想に関しましては、状況の推移を見守りながら大きな変化があればすぐに発表いたしますが、現状におきましては、第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想の変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年7月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,038	6,256
売掛金	3,353	3,225
製品	61	56
仕掛品	52	56
原材料及び貯蔵品	139	167
その他	326	550
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	9,969	10,310
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,892	8,987
機械装置及び運搬具（純額）	571	598
土地	3,003	3,003
建設仮勘定	4	2
その他（純額）	788	769
有形固定資産合計	13,259	13,361
無形固定資産	249	245
投資その他の資産		
投資有価証券	370	350
差入保証金	533	534
長期預金	900	900
繰延税金資産	103	108
その他	539	548
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	2,439	2,433
固定資産合計	15,947	16,040
資産合計	25,917	26,351

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年7月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,182	1,137
1年内返済予定の長期借入金	583	673
未払法人税等	58	392
賞与引当金	243	539
その他	2,125	1,732
流動負債合計	4,192	4,474
固定負債		
長期借入金	1,094	1,201
その他	179	152
固定負債合計	1,273	1,354
負債合計	5,466	5,829
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,861	5,861
利益剰余金	9,268	9,345
自己株式	△208	△208
株主資本合計	20,465	20,542
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△13	△20
評価・換算差額等合計	△13	△20
純資産合計	20,451	20,521
負債純資産合計	25,917	26,351

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年5月1日 至 平成20年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年5月1日 至 平成21年7月31日)
売上高	11,773	11,197
売上原価	5,203	4,832
売上総利益	6,569	6,365
販売費及び一般管理費	6,202	5,940
営業利益	366	424
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	2	1
保険配当金	7	9
その他	5	4
営業外収益合計	16	16
営業外費用		
支払利息	4	5
その他	0	0
営業外費用合計	5	5
経常利益	377	434
特別損失		
固定資産除却損	17	7
特別損失合計	17	7
税金等調整前四半期純利益	359	426
法人税等	174	211
四半期純利益	184	215

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年5月1日 至 平成20年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年5月1日 至 平成21年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	359	426
減価償却費	343	340
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△289	△296
受取利息及び受取配当金	△3	△3
支払利息	4	5
固定資産除却損	17	7
売上債権の増減額 (△は増加)	△101	△128
たな卸資産の増減額 (△は増加)	25	27
仕入債務の増減額 (△は減少)	72	45
その他	173	310
小計	602	737
利息及び配当金の受取額	3	3
利息の支払額	△4	△5
法人税等の支払額	△621	△353
営業活動によるキャッシュ・フロー	△19	383
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△20	△20
有形固定資産の取得による支出	△166	△91
有形固定資産の売却による収入	20	1
無形固定資産の取得による支出	△9	△31
長期前払費用の取得による支出	△61	△20
投資有価証券の取得による支出	△14	△6
差入保証金の回収による収入	4	54
差入保証金の差入による支出	△7	△2
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△252	△115
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△165	△197
リース債務の返済による支出	△2	△15
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△292	△292
財務活動によるキャッシュ・フロー	△459	△505
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△729	△237
現金及び現金同等物の期首残高	6,058	6,156
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,328	5,918

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自平成20年5月1日 至平成20年7月31日）

当社グループは、同一セグメントに属する各種そうざいの製造・販売事業を行っており、当該セグメント以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成21年5月1日 至平成21年7月31日）

当社グループは、同一セグメントに属する各種そうざいの製造・販売事業を行っており、当該セグメント以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

〔所在地別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自平成20年5月1日 至平成20年7月31日）

全セグメントの売上高の合計額に占める「本邦」の割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間（自平成21年5月1日 至平成21年7月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

〔海外売上高〕

前第1四半期連結累計期間（自平成20年5月1日 至平成20年7月31日）

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間（自平成21年5月1日 至平成21年7月31日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。